

(様式第 10)

宮 第 医 医 第 264 号

平成 28 年 9 月 29 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人宮崎大学長

池ノ上 克 (印)

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話( 0985 ) 85 - 1510
--------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

- |   |
|---|
| 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜   |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 腫瘍内科 6 神経内科 7 感染症内科 8 呼吸器内科 9 内分泌内科 10 代謝内科 11 糖尿病内科 12 リウマチ科 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科						<input checked="" type="radio"/> 有	・	<input type="radio"/> 無
外科と組み合わせた診療科名								
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14				
診療実績								

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科	<input checked="" type="radio"/> 2小児科	<input checked="" type="radio"/> 3整形外科	<input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="radio"/> 5皮膚科	<input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科	7産婦人科
<input checked="" type="radio"/> 8産科	<input checked="" type="radio"/> 9婦人科	<input checked="" type="radio"/> 10眼科	<input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input checked="" type="radio"/> 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	<input checked="" type="radio"/> 15麻酔科	<input checked="" type="radio"/> 16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						<input checked="" type="radio"/> 有	・	<input type="radio"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名								
1	2	3	4	5	6	7		
1 歯科口腔外科・矯正歯科								
歯科の診療体制								

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	224人	194人	376.4人	看 護 補 助 者	61人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	6人	13人	18人	理 学 療 法 士	14人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	26人	3人	29人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	2人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	14人	そ の 他	0人
助 産 師	29人	4人	31.5人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	515人	89人	591.2人	臨 床 工 学 士	12人	医療社会事業従事者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	46人
歯 科 衛 生 士	1人	6人	5.6人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	84人
管 理 栄 養 士	5人	3人	8人	診 療 放 射 線 技 師	32人	そ の 他 の 職 員	19人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	21人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	23人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	3人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	18人	脳 神 経 外 科 専 門 医	15人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	26人
泌 尿 器 科 専 門 医	12人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	10人
		合 計	204人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(鮫島 浩) 任命年月日 平成28年4月1日

平成24年4月1日～平成25年9月30日(医療安全管理委員会委員)  
 平成25年10月1日～平成26年3月31日(医療安全管理委員会委員長)  
 平成26年4月1日～現在(医療安全管理委員会委員)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	517.0人	11.8人	518.8人
1日当たり平均外来患者数	957.3人	77.2人	1034.5人
1日当たり平均調剤数	2090.1 剤		
必要医師数	111.0人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	27人		
必要(准)看護師数	295人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要		
集中治療室	414.4 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計 (有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置 (有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 薬剤管理指導室				
化学検査室	334 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR,c16000)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置(i2000SR,cobas8000)		
細菌検査室	87.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室		
病理検査室	68.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織・細胞診自動染色装置、自動封入器、免疫自動染色装置、ドラフト装置、サイトスピン、ThinPrep、自動封入器FISH装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、ミクロトーム、セーフティキャビネット、恒温器、伸展器、温浴器、オートクレーブ、純水製造装置、VOLTEX、顕微鏡、電子天秤		
病理解剖室	52.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン希釈装置、ホルマリン排気バケツBOX、セーフティラック、解剖用骨切断鋸装置、体重計、パソコン(CUMNAVI用)、電子天秤、電子計量器		
研究室	2650 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか		
講義室	553 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員 475人
図書室	787 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数 125,284冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	
紹介率	91.1%	逆紹介率	71.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,651 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,683 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,477 人	
	D: 初診の患者の数	12,221 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
検討中				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
検討中	







(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	慢性閉塞性肺疾患の運動耐容能改善効果の評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性呼吸不全を来した患者を対象にペプチドホルモングレリンを3週間にわたって点滴静注し(1日2回投与)、運動耐容能の改善、食欲、体重増加を評価する。			
医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 尋常性痤瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	皮膚悪性リンパ腫へのACNU外用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮膚悪性リンパ腫の皮膚病変に対し、抗癌剤であるACNUの外用療法を行っている。			
医療技術名	酒查皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	骨導インプラント	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 先天性外耳道閉鎖症患者に対し、Baha Attract 及びBone bridge植込み術を行った。 両Deviceとも、従来のBahaの欠点であるインプラントの体表露出がないように改良されている。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	63
2	筋萎縮性側索硬化症	18	57	特発性拡張型心筋症	28
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	16
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	1	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	60	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	5	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリエー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	56	66	IgA腎症	5
12	先天性筋無力症候群		67	多発性囊胞腎	10
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	33	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	24	69	後縦靱帯骨化症	66
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	75
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	19	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	42
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	8
21	ミトコンドリア病	7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	15	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	25
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	115
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	5	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	70
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	20
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	24	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	22	90	網膜色素変性症	19
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	15	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	21
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	10
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	170
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	249
43	顕微鏡的多発血管炎	27	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	12	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	5	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	GFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	168	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	65	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	70	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	22	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	24	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オキシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鯉耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガスター症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスマッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	7	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシユスブルグ病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料(一般 7:1)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料(精神 13:1)及び注4(重度認知症)の加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・臨床研修病院入院診療加算 1基幹型	・救命救急入院料1
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料4及び注1(広範囲熱傷)の加算、注2(小児)の加算
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算2	・小児入院医療管理料2及び注2(プレイルーム)の加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・看護補助加算2(精神科)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1及び感染防止対策地域加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・手術時歯根面レーザー応用加算
・高度難聴指導管理料	・歯科技工加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・がん患者指導管理料1	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・がん患者指導管理料2	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術
・外来緩和ケア管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来放射線照射診療料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ニコチン依存症管理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・網膜再建術
・がん治療連携計画策定料	・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん治療連携管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・薬剤管理指導料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・医療機器安全管理料1	・経皮的冠動脈形成術
・医療機器安全管理料2	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療機器安全管理料(歯科)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・歯科治療総合医療管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・遺伝学的検査	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・検体検査管理加算(IV)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・国際標準検査管理加算	・経皮的大動脈遮断術
・遺伝カウンセリング加算	・ダメージコントロール手術
・植込型心電図検査	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉医錠)を伴うものに限る。)
・胎児心エコー法	・体外衝撃波胆石破砕術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下肝切除術
・ヘッドアップティルト試験	・体外衝撃波膀胱石破砕術

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下隣体尾部腫瘍切除術
・神経学的検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・補聴器適合検査	・生体腎移植術
・ロービジョン検査判断料	・膀胱水圧拡張術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・有床義歯咀嚼機能検査	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・画像診断管理加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ポジトロン断層	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・輸血管理料Ⅰ
・CT撮影及びMRI撮影	・輸血適正使用加算
・冠動脈CT撮影加算	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・外傷全身CT加算	・人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
・大腸CT撮影加算	・歯周組織再生誘導手術
・心臓MRI撮影加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・乳房MRI撮影加算	・歯根端切除手術の注3
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・麻酔管理料(Ⅰ)
・外来化学療法加算1	・麻酔管理料(Ⅱ)
・無菌製剤処理科	・放射線治療専任加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・外来放射線治療加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・高エネルギー放射線治療
・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・強度変調放射線治療(iMRT)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・がん患者リハビリテーション料	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医療保護入院等診療料	・画像誘導密封小線源治療加算
・硬膜外自家血注入	・保険医療機関間の連携による病理診断
・透析液水質確保加算1	・病理診断管理加算2
・一酸化窒素吸入療法	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・手術用顕微鏡加算	・歯科矯正診断料
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・CAD/CAM冠	





(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織アンジオテンシンII生成におけるビッグアンジオテンシン-25の役割の解明	永田 さやか	第一内科	1,560,000	補 委 文部科学省
虚血性心疾患の再発防止に向けた冠動脈血栓および動脈硬化巣の組織性状の解析	西平 賢作	第一内科	1,560,000	補 委 文部科学省
虚血性心疾患の再発防止に向けた冠動脈血栓および動脈硬化巣の組織性状の解析	西平 賢作	第一内科	800,000	補 委 文部科学省
Big angiotensin-25の生体内での役割と診断薬としての可能性	北村 和雄	第一内科	3,510,000	補 委 文部科学省
心不全・動脈瘤の発症/進展におけるオステオプロテゲリンの関与	鶴田 敏博	第一内科	1,690,000	補 委 文部科学省
難治性腎疾患に関する調査研究	藤元 昭一	第一内科	300,000	補 委 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	第一内科	500,000	補 委 厚生労働省
我が国で発見された生理活性ペプチド“アドレノメデュリン”の医薬品としての研究開発	北村 和雄	第一内科	70,889,000	補 委 国立研究開発法人科学技術振興機構
難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	第一内科	215,526,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
健康診断尿潜血陽性者中の診断スコア法の検証研究	藤元 昭一	第一内科	1,000,000	補 委 学校法人順天堂 順天堂大学
アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ	北村 和雄	第一内科	1,500,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
ANCA関連血管炎国際共同臨床試験	藤元 昭一	第一内科	300,000	補 委 学校法人杏林学園 杏林大学
CKD疫学調査分科会 担当 特定健診コホートの解析	藤元 昭一	第一内科	500,000	補 委 国立大学法人筑波大学
TET2変異による造血器腫瘍の発症と進展メカニズムの解明	下田 和哉	第二内科	1,820,000	補 委 文部科学省
骨髄増殖性腫瘍における重複遺伝子異常の意義及び急性転化メカニズムの解明	亀田 拓郎	第二内科	1,950,000	補 委 文部科学省
骨髄線維症における難治性病態の分子メカニズム解明とその克服	幣 光太郎	第二内科	1,950,000	補 委 文部科学省
正常造血及びMPN発症におけるCaireticulinの役割解明	北中 明	第二内科	1,690,000	補 委 文部科学省
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	下田 和哉	第二内科	360,000	補 委 厚生労働省
全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発	下田 和哉	第二内科	39,132,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病リンパ腫に対する新規テラーメイド治療	下田 和哉	第二内科	10,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規摂食・エネルギー代謝調節ペプチドの網羅的探索と機能解析	中里 雅光	第三内科	4,940,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
上皮統合性維持機構を標的とする急性呼吸促迫症候群発症機構の解明と新規治療法の探索	中里 雅光	第三内科	1,560,000	補 委	文部科学省
上皮間葉連関を焦点とした肺発生での上皮Ptenの機能解析	三浦 綾子	第三内科	975,000	補 委	文部科学省
新規グラニン由来ペプチドNERP-4の摂食エネルギー・糖代謝機能の検討	山口 秀樹	第三内科	1,560,000	補 委	文部科学省
運動時の感覚神経求心路刺激にตอบสนองする臓器の探索	十枝内 厚次	第三内科	1,690,000	補 委	文部科学省
がん特異的プロテアーゼによる尿中シェディング産物を応用した肺腺癌早期診断法の確立	松元 信弘	第三内科	1,820,000	補 委	文部科学省
肺癌におけるグレリンの分子生物学的意義と緩和期肺癌患者へのグレリン投与の検討	飯干 宏俊	第三内科	1,820,000	補 委	文部科学省
慢性砒素中毒が神経系に与える影響の研究	望月 仁志	第三内科	1,820,000	補 委	文部科学省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	中里 雅光	第三内科	150,000	補 委	厚生労働省
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	中里 雅光	第三内科	55,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
早期診断マルチバイオマーカー開発(がん細胞が特異的に生成するシェディング産物の網羅的解析によるがん細胞が生成する尿中蛋白質断片の検出を応用した肺腺癌早期診断システム樹立に関する研究)	中里 雅光	第三内科	51,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
消化管ペプチドと循環器との機能連関に関する研究	中里 雅光	第三内科	33,341,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	中里 雅光	第三内科	1,500,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
治療抵抗性関節リウマチ患者におけるHTLV-1感染の影響	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	364,000	補 委	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
動物接種とゲノム解析の組み合わせによる画期的な難同定病原微生物診断法の開発	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	補 委	文部科学省
炎症性肺疾患におけるマイクロパーティクルの役割と治療戦略としての意義	長友 安弘	膠原病・感染症内科	1,170,000	補 委	文部科学省
HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめ	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	910,000	補 委	文部科学省
HTLV-1 陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,400,000	補 委	厚生労働省
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	14,755,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神神経疾患の個体差を克服する個別化薬物療法に有用な分子標的放射性診断薬の開発	石田 康	精神科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
視覚性記憶に係わる嗅周皮質ニューロン内カルシウムイオン依存性情報伝達経路の役割	石田 康	精神科	260,000	補 委	文部科学省
BPSD発言予測因子としてのバイオマーカーの応用研究	林 要人	精神科	130,000	補 委	文部科学省
痒みの伝達におけるヘモキニン-1の役割に関する研究	船橋 英樹	精神科	1,170,000	補 委	文部科学省
視覚性記憶に係わる嗅周皮質ニューロン内カルシウムイオン依存性情報伝達経路の役割	安部 博史	精神科	1,820,000	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児バセドウ病に対するコレステロール吸収阻害剤併用療法の多施設ランダム化比較試験	澤田 浩武	小児科	130,000	補 委	文部科学省
CD28細胞内シグナル活性化によるポドサイト傷害機序の解明	此元 隆雄	小児科	1,040,000	補 委	文部科学省
家族性急性リンパ性白血病の原因遺伝子の探索	盛武 浩	小児科	650,000	補 委	文部科学省
Mfsd2遺伝子ノックアウトマウスにおけるエネルギー代謝特性の解明	澤田 浩武	小児科	910,000	補 委	文部科学省
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委	厚生労働省
小児稀少疾患に対する病態解析	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	池田 俊郎	小児科	3,250,000	補 委	学校法人東京女子医科大学
リプレガルを投与されたファブリー病患者を対象としたLyso-Gb3の測定(レトロスペクティブ研究)	澤田 浩武	小児科	25,920	補 委	学校法人明治薬科大学
慢性肉芽腫症腸炎の患者選定、治験実施体制の整備、治験の実施	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
糖鎖連結クロリンを用いた新しい光線力学的療法による胆管癌の次世代局所治療法の開発	七島 篤志	肝胆膵外科	1,300,000	補 委	文部科学省
FDG PET腫瘍診断と腫瘍遺伝子変異の関連に基づくテーラーメイド医療の開発	七島 篤志	肝胆膵外科	130,000	補 委	文部科学省
臨床実用を目指した癌幹細胞標的光線力学的療法の基礎研究	七島 篤志	肝胆膵外科	260,000	補 委	文部科学省
レジリエンス・エンジニアリング理論の医療の質・安全における実用化に関する研究	綾部 貴典	呼吸器・乳腺外科	182,000	補 委	文部科学省
骨特異的プロモーター+レポーター遺伝子導入ES細胞を用いた骨再生の新たな試み	大田 智美	整形外科	1,040,000	補 委	文部科学省
可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨代謝に関与する新規遺伝子群の機能解析	黒木 修司	整形外科	1,430,000	補 委	文部科学省
著明な骨量減少をきたすNedd4遺伝子欠損マウスの機能解析	関本 朝久	整形外科	1,950,000	補 委	文部科学省
円板状半月が歩行におよぼす影響についての研究	山口 奈美	整形外科	910,000	補 委	文部科学省
肩関節変性疾患の病態解明	谷口 昇	整形外科	1,690,000	補 委	文部科学省
骨系統疾患モデルマウス候補Lbrトラップマウスの表現型解析	船元 太郎	整形外科	1,950,000	補 委	文部科学省
CRPCにおけるCAVEOLIN-1、2関連シグナル伝達を介した新規治療法の探索	賀本 敏行	泌尿器科	1,690,000	補 委	文部科学省
腎癌骨転移における膜結合型タンパクの機能解析と新規治療法の確立	向井 尚一郎	泌尿器科	1,950,000	補 委	文部科学省
低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率	賀本 敏行	泌尿器科	324,000	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
転移性前立腺癌に対するGnRHアンタゴニスト単剤療法とGnRHアゴニストCAB療法のランダム化比較試験	賀本 敏行	泌尿器科	64,800	補 委	一般社団法人九州臨床研究支援センター
非動脈炎性虚血性視神経症の治療とステロイドの毛様動脈への弛緩作用の検討	中馬 秀樹	眼科	390,000	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
未熟児網膜症に対する bevacizumabの効果の検討	福島 慶美	眼科	910,000	補 委	文部科学省
X連鎖性網膜色素変性症の治療の 試みと原因の解明	直井 信久	眼科	2,600,000	補 委	文部科学省
非動脈炎性虚血性視神経症ラット モデルによる動物実験	日高 貴子	眼科	3,250,000	補 委	文部科学省
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻いんこう・頭頸部 外科	600,000	補 委	厚生労働省
症例の収集をおよび新しい遺伝子 診断システムによりサブタイプ化さ れた難聴症例に対する治療(人工 乳幼児突然死症候群(SIDS)および 乳幼児突発性危急事態(ATLE)の 病態解明等と死亡数減少のための HTLV-1 母子感染予防に関する研 究:HTLV-1 抗体陽性母体からの出 生児のコホート研究	東野 哲也	耳鼻いんこう・頭頸部 外科	650,000	補 委	国立大学法人信 州大学
児玉 由紀	産科・婦人科	400,000	補 委	厚生労働省	
鯨島 浩	産科・婦人科	500,000	補 委	厚生労働省	
地域格差是正を通じた周産期医療 体制の将来ビジョン実現に向けた 先行研究	鯨島 浩	産科・婦人科	600,000	補 委	厚生労働省
医食農連携による日向夏搾汁残渣 を用いた骨代謝改善素材、飲料の 実用化開発	山口 昌俊	産科・婦人科	8,062,000	補 委	支出負担行為担 当官 農林水産 技術会議事務局
妊婦診断開発と中央検査体制	鯨島 浩	産科・婦人科	1,755,000	補 委	国立大学法人東 京大学
虚血性脳血管障害のイメージングを 目的とした新規PET用フルオロ酢酸 誘導体の開発	西井 龍一	放射線科	130,000	補 委	文部科学省
“主幹動脈収縮説”を基盤としたも やもや病早期診断/重症化予測法 の確立	平井 俊範	放射線科	39,000	補 委	文部科学省
局所蛋白過剰発現による深部静脈 血栓の形成機序解析と治療法の確 立	古小路 英二	放射線科	1,040,000	補 委	文部科学省
特徴対応異種画像統合法を用いた 個人特定法医画像診断法の開発	西井 龍一	放射線科	1,540,000	補 委	文部科学省
定量的磁化率マップによる脳アミロ イドの定量化および画像化	平井 俊範	放射線科	2,340,000	補 委	文部科学省
認知症におけるアパシーの神経基 盤に関する研究	平井 俊範	放射線科	65,000	補 委	文部科学省
時系列カラー表示ASL-MRAの基 礎的・臨床的研究	平井 俊範	放射線科	520,000	補 委	文部科学省
臨床用MRIを用いたアルツハイマー 病発症前診断を可能にする位相画 像技術の開発	平井 俊範	放射線科	130,000	補 委	文部科学省
重症敗血症における臓器リモデリン グの検討	矢野 武志	麻酔科	2,600,000	補 委	文部科学省
神経幹細胞、神経膠芽腫幹細胞 における転写因子Evi1の機能解明	横上 聖貴	脳神経外科	650,000	補 委	文部科学省
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対 するペプチドワクチンの第三相臨床 研究	竹島 秀雄	脳神経外科	1,300,000	補 委	学校法人久留米 大学
OSCC新規診断、治療標的としての BST2の検討	近藤 雄大	歯科口腔外科・矯正歯 科	910,000	補 委	文部科学省
人工骨補填材を用いた生体内での 血管付着骨組織再生に関する実験 的研究	山下 善弘	歯科口腔外科・矯正歯 科	780,000	補 委	文部科学省
人工呼吸器管理患者における高感 度濁度計の口腔清潔度評価として の有用性の検討	井川 加織	歯科口腔外科・矯正歯 科	1,300,000	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口腔顎顔面筋刺激が顎口腔機能異常患者の睡眠・ストレスに及ぼす効果の検討	温水 佳世子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,950,000	補 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌における炎症性発癌機構の解明	長井 健太郎	歯科口腔外科・矯正歯科	1,170,000	補 委	文部科学省
特徴対応異種画像統合法を用いた個人特定法医画像診断法の開発	新川 慶明	放射線部	90,000	補 委	文部科学省
胆道癌における癌関連遺伝子発現とFDG集積との関連に関する研究	長町 茂樹	放射線部	1,300,000	補 委	文部科学省
成人T細胞性白血病・リンパ腫における遺伝子変異の解析とその意義の解明	久富木 庸子	輸血・細胞治療部	1,690,000	補 委	文部科学省
個人を中心とするヘルスケアデータの活用に関する研究	荒木 賢二	医療情報部	5,070,000	補 委	文部科学省
アテローム血栓症におけるkalirinの関与	佐藤 勇一郎	病理診断科	1,560,000	補 委	文部科学省
呼吸器悪液質発症に関与する脂肪細胞由来因子の同定とグレリンの抗悪液質作用機序解明	坪内 拓伸	卒後臨床研修センター	1,170,000	補 委	文部科学省
HTLV-1キャリアにおける遺伝子変異の解析とその臨床的意義の解明	日高 智徳	がん診療部	1,690,000	補 委	文部科学省
医療者間コミュニケーション不全解消のための電子クリニカルパスの要件定義および実装	鈴木 斎王	地域医療連携センター	2,210,000	補 委	文部科学省
肝臓がんに対するシスプラチン/カフェイン併用化学療法の有効性に関する研究	有森 和彦	薬剤部	1,170,000	補 委	文部科学省

小計 11

合計 104

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kenji Kuwasako	第一内科・フロンティア科学実験総合センター生理活性物質探索病態解析分野	Inhibitory effects of two G protein-coupled receptor kinases on the cell surface expression and signaling of the human adrenomedullin receptor.	Biochemical and Biophysical Research Communications 470(4):894-899 2016
2	Noriyuki Ogawa	第一内科	Plasma levels of natriuretic peptides and development of chronic kidney disease.	BMC Nephrology 16:171 2015
3	Matsuura Yunosuke	第一内科	Vascular wall hypoxia promotes arterial thrombus formation via augmentation of vascular thrombogenicity	Thrombosis and Haemostasis 114(1):158-172 2015
4	Hiroyuki Komatsu	第一内科・医療人育成支援センター	Significance of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy for IgA nephropathy with mild proteinuria.	Clinical and Experimental Nephrology 20(1):94-102 2016
5	Hiroyuki Komatsu	第一内科・医療人育成支援センター	Clinical Manifestations of Henöch-Schö nlein purpura nephritis and IgA nephropathy: comparative analysis of data from the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR).	Clinical and Experimental Nephrology Published online 11 2015
6	Shinya Ashizuka	第一内科	Adrenomedullin Therapy in Patients with Refractory Ulcerative Colitis: A Case Series.	Digestive Diseases and Sciences 61(3):872-80 2016
7	Masashi Yamaguchi	第一内科	Acute Renal Injury Induced by Hypersensitivity to Tolvaptan in an Elderly Patient with Congestive Heart Failure.	Internal Medicine 54(10):1243-1246 2016
8	Toshihiro Kita	第一内科	Differences in 24-h blood pressure profile of Japanese hypertensive patients under ARB treatment.	Clinical and Experimental Hypertension 37(7):574-9 2015
9	Akihiro Minakawa	第一内科	New-onset haematoproteinuria in a 63-year-old man with intraperitoneal lymph node enlargement.	BMJ Case Reports DOI:10.1136/bcr-2016-214366 2016
10	Sae Miyaushiro	第一内科	Nasopharyngeal carcinoma with bone marrow metastasis: positive response to weekly paclitaxel chemotherapy.	Internal Medicine 54(11):1455-9 2015
11	Toshihiro Tsuruda	第一内科	Angiotensin II Stimulation of Cardiac Hypertrophy and Functional Decompensation in Osteoprotegerin-Deficient Mice.	Hypertension 67(5):848-56 2016
12	Yilin Hao	第一内科	Cardiac hypertrophy is exacerbated in aged mice lacking the osteoprotegerin gene.	Cardiovascular Research 110(1):62-72 2016

13	Fukuda Akihiro	第一内科	Urine podocyte mRNAs mark disease activity in IgA nephropathy.	Nephrology Dialysis Transplantation 30(7):1140-1150 2015
14	Toida Tatsunori	第一内科	Glycaemic control is a predictor of infection-related hospitalization on haemodialysis patients: Miyazaki Dialysis Cohort study (MID study).	Nephrology (Carlton) 21(3):236-40 2016
15	Johji Kato	第一内科・フロンティア 科学実験総合センター 生理活性物質探索 病態解析分野	Bench-to-bedside pharmacology of adrenomedullin.	European Journal of Pharmacology 764:140-148 2015
16	Akira Kitanaka	第二内科	Splenic irradiation provides transient palliation for symptomatic splenomegaly associated with primary myelofibrosis: a report on 14 patients.	International Journal of Hematology. 103(4):423-428 2016
17	Tadashi Miike	第二内科	Surrounding Gastric Mucosa Findings Facilitate Diagnosis of Gastric Neoplasm as Gastric Adenoma or Early Gastric Cancer.	Gastroenterology Research and Practice. 2016(4):1-5 2016
18	Shimoda Kazuya	第二内科	TET2 Mutation in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma.	Journal of Clinical and Experimental Hematopathology. 55(3):145-149 2015
19	Takuro Kameda	第二内科	Gene expression profiling of loss of TET2 and/or JAK2V617F mutant hematopoietic stem cells from mouse models of myeloproliferative neoplasms.	Genomics Data. 4:102-104 2015
20	Hiroaki Ueno	第三内科	Effects of Miglitol, Acarbose, and Sitagliptin on Plasma Insulin and Gut Peptides in Type 2 Diabetes Mellitus: A Crossover Study.	Diabetes Therapy 6(2):187-196 2015
21	Hiroaki Ueno	第三内科	Is ghrelin a glucagon-like peptide-1 secretagogue?	Journal of Diabetes Investigation in press 2015
22	Hiroaki Ueno	第三内科	Mechanistic relationship between the vagal afferent pathway, central nervous system and peripheral organs in appetite regulation.	Journal of Diabetes Investigation in press 2016
23	Hitoshi Mochizuki	第三内科	PR prolongation and cardiac 123I-MIBG uptake reduction in Parkinson's disease.	European Neurology 74(1-2):107-111 2015
24	Hitoshi Mochizuki	第三内科	Increased body mass index associated with autonomic dysfunction in Parkinson's disease.	Parkinsonism and Related Disorders 24:129-131 2016
25	Hitoshi Mochizuki	第三内科	Prolonged central sensory conduction time in patients with chronic arsenic exposure.	Journal of the Neurological Sciences 361:39-42 2016
26	Shigehisa Yanagi	第三内科	Breakdown of Epithelial Barrier Integrity and Overdrive Activation of Alveolar Epithelial Cells in the Pathogenesis of Acute Respiratory Distress Syndrome and Lung Fibrosis.	BioMed Research International 2015:573210 2015



27	Hironobu Tsubouchi	第三内科	Breakdown of Epithelial Barrier Integrity and Overdrive Activation of Alveolar Epithelial Cells in the Pathogenesis of Acute Respiratory Distress Syndrome and Lung Fibrosis.	Respiratory Medicine Case Reports 15:62-65 2015
28	Nobuyuki Ishii	第三内科	An autopsy case of elderly-onset acute necrotizing encephalopathy secondary to influenza.	Journal of the Neurological Sciences 354(1-2):129-130 2015
29	Yuki Nakazato	第三内科	Spinocerebellar ataxia 36 accompanied by cervical dystonia.	Journal of the Neurological Sciences 357(1-2):304-306 2015
30	Taniguchi Akitoshi	第三内科	Hypometabolism of watershed areas of the brain in HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	Neurological Sciences 36(11):2117-2120 2015
31	Naznin Farhana	第三内科	Diet-induced obesity causes peripheral and central ghrelin resistance by promoting inflammation.	Journal of Endocrinology 226(1):81-92 2015
32	Waise TM Zaved	第三内科	One-day high-fat diet induces inflammation in the nodose ganglion and hypothalamus of mice.	Biochemical and Biophysical Research Communications 464(4):1157-1162 2015
33	Takeshi Kawaguchi	膠原病・感染症内科	Severe fever with thrombocytopenia syndrome with myocardial dysfunction and encephalopathy: A case report.	Journal of Infection and Chemotherapy S1341-321X(16)00047-7 2016
34	Kunihiko Umekita	膠原病・感染症内科	Use of anti-tumor necrosis factor biologics in the treatment of rheumatoid arthritis does not change human T-lymphotropic virus type 1 markers: a case series.	Modern Rheumatology 25(5):794-797 2015
35	Yoshihito Hayashi	精神科	An open-label trial of Yokukansan on sleep disturbance in Alzheimer's disease and other dementia.	Journal of Prevention of Alzheimer's Disease 2(3):172-177 2015
36	Yasushi Ishida	精神科	Yokukansan, a Traditional Japanese Medicine, Enhances the L-DOPA-Induced Rotational Response in 6-Hydroxydopamine-Lesioned Rats: Possible Inhibition of COMT.	Biological and Pharmaceutical Bulletin 39(1):104-113 2016
37	Maiko Utoyama	小児科	Role of the neural pathway from hindbrain to hypothalamus in the regulation of energy homeostasis in rats.	Neuroscience Letters 614:83-88 2016
38	Hideaki Imamura	小児科	Familial C3 glomerulonephritis associated with mutations in the gene for complement factor B.	Nephrology Dialysis Transplantation 30(5):862-4 2015
39	Hideaki Imamura	小児科	Sporadic paraganglioma caused by de novo SDHB mutations in a 6-year-old girl.	European Journal of Pediatrics 175(1):137-41 2015
40	Hiroshi Moritake	小児科	Autoimmunity Including Intestinal Behçet Disease Bearing the KRAS Mutation in Lymphocytes: A Case Report.	Pediatrics 137(3):e20152891 2015

41	Hiroshi Moritake	小児科	Analysis of the molecular mechanism underlying bone marrow necrosis with acute lymphoblastic leukemia.	International Journal of Hematology 102(3):349-356 2015
42	Mitsuhiro Yano	心臓血管外科	A new method for the adjustment of neochordal length: the adjustable slip knot technique.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 21(2):240-242 2015
43	Kouji Furukawa	心臓血管外科	On-pump beating heart surgery without aortic cross-clamping for ischemic cardiomyopathy complicated by porcelain aorta.	Open journal of clinical & medical case reports 1(6):1035 2015
44	Kouji Furukawa	心臓血管外科	Supraceliac aortic clamping for repair of ruptured abdominal aortic aneurysm in patients with short aortic neck length.	World Journal of Cardiovascular Surgery 1(6):5-13 2016
45	Takanori Ayabe	呼吸器・乳腺外科	A Resection of the Giant First Left Rib Tumor and Chest Wall Reconstruction by Transmanubrial Osteomuscular Sparing Approach.	Open Journal of Thoracic Surgery 5:35-42 2015
46	Masaki Tomita	呼吸器・乳腺外科	Correlation between serum carcinoembryonic antigen level and histologic subtype in resected lung adenocarcinoma.	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 16(9):3857-3860 2015
47	Masaki Tomita	呼吸器・乳腺外科	Impact of smoking on outcome of resected lung adenocarcinoma.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 63(11):608-612 2015
48	Masaki Tomita	呼吸器・乳腺外科	Postoperative Serum CEA Level is a More Significant Prognostic Factor than Post/Preoperative Serum CEA Ratio in Non-small Cell Cancer Patients.	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 16(17):7809-7812 2015
49	Masaki Tomita	呼吸器・乳腺外科	Isolated Renal Metastasis from Non-Small-Cell Lung Cancer: Report of 2 Cases.	Case Reports in Surgery 2015:357481 2015
50	Jiro Ohuchida	肝胆膵外科	Randomized controlled trial for efficacy of nafamostat mesilate in preventing post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis.	Pancreas 44(3):415-421 2015
51	Masahide Hiyoshi	肝胆膵外科	Stent Placement for Portal Vein Stenosis After Pancreaticoduodenectomy.	World Journal of Surgery 39(9):2315-2322 2015
52	Tomohisa Sekimoto	整形外科	Possible association of single nucleotide polymorphisms in the 3' untranslated region of HOXB9 with acetabular overcoverage.	Bone & Joint Research 4(4):50-55 2015
53	Takuya Tajima	整形外科	Prospective comparisons of femoral tunnel enlargement with 3 different postoperative immobilization periods after double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with hamstring grafts.	Arthroscopy : the journal of arthroscopic & related surgery : official publication of the Arthroscopy Association of North America and the International Arthroscopy Association 31(4):651-658 2015

54	Takuya Tajima	整形外科	Remnant-preservint, selective single-bundle augmentation of the anterior cruciate ligament using a bone-patellar tendon-bone autograft: a technical note.	Knee 23(3):554-558 2016
55	Hiroshi Kuroki	整形外科	Two siblings with neuropathic scoliosis caused by Chiari malformation type I with syringomyelia.	Journal of Orthopaedic Science 20(3):579-583 2015
56	Hiroshi Kuroki	整形外科	Efficacy of the Osaka Medical College (OMC) brace in the treatment of adolescent idiopathic scoliosis following Scoliosis Research Society brace studies criteria.	Scoliosis 11;10:12 2015
57	Hiroshi Kuroki	整形外科	Predictive factors of Osaka Medical College (OMC) brace treatment in patients with adolescent idiopathic scoliosis.	Scoliosis 10;10:11 2015
58	Satoru Sugie	泌尿器科	Significant Association of Caveolin-1 and Caveolin-2 with Prostate Cancer Progression.	Cancer Genomics and Proteomics 12(6):391-396 2015
59	Satoru Sugie	泌尿器科	Plasma macrophage-stimulating protein and hepatocyte growth factor levels are associated with prostate cancer progression.	Human Cell 29(1):22-9 2016
60	Yuichi Katayama	泌尿器科	CT evaluation of acupuncture needles inserted into sacral foramina.	Acupancture in Medicine 34(1):20-6 2016
61	Shoichiro Mukai	泌尿器科	Expression of human kallikrein 1-related peptidase 4 (KLK4) and MET phosphorylation in prostate cancer tissue: immunohistochemical analysis.	Human Cell 28(3):133-42 2015
62	Haruka Nakanishi	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Postoperative Submandibular Gland Swelling following Craniotomy under General Anesthesia.	Case Reports in Otolaryngology 2051:949483 2015
63	Junko Nishimoto	皮膚科	The detection of Propionibacterium acnes signatures in granulomas of lupus miliaris disseminatus faciei.	Journal of Dermatology 42(4):418-421 2015
64	Seishi Furukawa	産婦人科	The effect of placental abruption on the outcome of extremely premature infants.	Journal of Maternal Fetal Neonatal Medicine 28(6):705-708 2015
65	Yohei Maki	産婦人科	Amniocentesis for threatened preterm labor with intact membranes and the impact on adverse outcome in infants born at 22 to 28 weeks of gestation.	Early Human Development 91(5):333-337 2015
66	Hiroko Hata	産婦人科	A water-soluble high molecular weight substance isolated from Hyuganatsu orange(Citrus tamurana), suspected to be a polysaccharide, inhibits rat osteoclast cell formation.	Functional Foods in Health and Disease 5(6):188-199 2015

67	Masatoki Kaneko	産婦人科	Perinatal morbidity and mortality for extremely low-birthweight infants: A population-based study of regionalized maternal and neonatal transport.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 41(7):1056-1066 2015
68	Seishi Furukawa	産婦人科	The importance of the monitoring of resuscitation with blood transfusion for uterine inversion in obstetrical hemorrhage.	Obstetrics and Gynecology International 2015;2015:269156 2015
69	Masatoki Kaneko	産婦人科	Did antepartum hypoxic insult caused by fetal vessel thrombosis influence the procalcitonin level in umbilical blood? A case report.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 41(11):1839-1842 2015
70	Yuki Kodama	産婦人科	Intrapartum fetal heart rate patterns preceding terminal bradycardia in infants(>34 weeks) with poor neurological outcome: A regional population-based study in Japan	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 41(11):1738-1743 2015
71	Seishi Furukawa	産婦人科	The longitudinal change of extracellular antioxidant status during pregnancy using an electron spin resonance method.	Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 29(18):2994-2999 2015
72	Naoshi Yamada	産婦人科	Histological severity of fetal inflammation is useful in predicting neonatal outcome.	Placenta 36(12):1490-1493 2015
73	Kouji Yamasaki	脳神経外科	Rapidly Enlarging Pediatric Cortical Ependymoma.	Journal of Korean Neurosurgical Society 57(6):487-490 2015
74	Yuudai Kondo	歯科口腔外科	Ectopic Tonsillar Tissue in oral Floor	Japanese Journal of Oral Diagnosis / Oral Medicine 28(2):153-155 2015
75	Nozomi Okuyama	病理診断科	Human Coronary Thrombus Formation Is Associated With Degree of Plaque Disruption and Expression of Tissue Factor and Hexokinase II.	Circulation Journal 79(11):2430-2438 2015
76	Eriko Nakamura	病理診断科	Case report: Ovarian seromucinous borderline tumor and clear cell carcinoma: An unusual combination.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology 2015:690891 2015
77	Atsushi Yamashita	病理診断科	Pathophysiology of Atherothrombosis:Thrombus Growth, Vascular Thrombogenicity, and Plaque Metabolism	Thrombosis,Atherosclerosis and Atherothrombosis:New Insights and Experimental Protocols 1-25.DOI:10.5772-61769 2015
78	Yukihiro Haruyama	病理診断科	Glypican-3 is a prognostic factor and an immunotherapeutic target in hepatocellular carcinoma.	World Journal of Gastroenterology 22(1):275-283 2016
79	Makiko Kawaguchi	病理診断科	Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 maintains the assembly of keratin into desmosomes in keratinocytes by regulating protease-activated receptor 2-dependent p38 signaling.	American Journal of Pathology 185(6):1610-1623 2015

80	Makiko Kawaguchi	病理診断科	Ghrelin administration suppresses inflammation-associated colorectal carcinogenesis in mice.	Cancer Science 106(9):1130-1136 2015
81	Hiroyuki Tanaka	病理診断科	Primary pulmonary angiosarcoma: a case report.	Pathology International 65(10):554-557 2015
82	Kenji Yorita	病理診断科	A case of a pleomorphic hyalinizing angiectatic tumor of soft parts with intracytoplasmic hemosiderin pigment apparent upon fine-needle aspiration cytology.	Diagnostic Cytopathology 43(5):407-411 2015
83	Kenji Yorita	病理診断科	Unusual cystic hamartomatous lung lesion with clinical manifestation of subpleural bullae in a woman of reproductive age: A case report.	Pathology International 65(10):558-562 2015
84	Kenji Yorita	病理診断科	A novel case presenting with an unusual ureteral diverticular lesion similar to adenomyomatous hyperplasia of the gallbladder.	Pathology International 66(3):169-173 2016
85	Kenji Yorita	病理診断科	Image of the month: A Novel Case of an Unusual Esophageal Submucosal Tumor: An Esophageal Submucosal Gland Hyperplasia.	American Journal of Gastroenterology 110(9):1262 2015
86	Yuuki Hashikura	検査部	The diversity of the structure and genomic integration sites of HTLV-1 provirus in MT-2 cell lines	Human Cell 29(3):122-129 2016
87	Toshiya Azuma	放射線部	Optimal Imaging Parameters for Readout-segmented EPI of the Temporal Bone.	Magnetic Resonance in Medical Sciences 14(2):145-152 2015
88	Asato Ofuji	放射線部	Development of a simple non-invasive microsphere quantification method for cerebral blood flow using I-123-IMP.	Annals of Nuclear Medicine 30(3):242-9 2016
89	Masaki Kudo	放射線部	Influence of leg-length discrepancy on anterior acetabular coverage using false profile image.	Journal of Orthopaedic Science 20(5):861-867 2015
90	Takeshi Yano	集中治療部	Continuous rocuronium administration for tracheomalacia.	Journal of Anesthesia 29(6):978 2015

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 医の倫理委員会審査の標準業務手順書 医の倫理委員会申請の標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 9 回 内訳：委員会4回、 持ち回り委員会45回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容 ・ 関係法令、指針、学内規程について ・ 医の倫理委員会申請書の作成、申請手続きについて	

## (様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

## 2 研修の実績

研修医の人数	69 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北村 和雄	第一内科	教授	35年	
下田 和哉	第二内科	教授	28年	
中里 雅光	第三内科	教授	35年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内科	教授	35年	
石田 康	精神科	教授	30年	
布井 博幸	小児科	教授	38年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	27年	
池田 拓人	消化管・内分泌・ 小児外科	講師	23年	
中村 都英	心臓血管外科	教授	34年	
富田 雅樹	呼吸器・乳腺外科	准教授	27年	
守永 圭吾	形成外科	講師	16年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	31年	
天野 正宏	皮膚科	教授	29年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	28年	
直井 信久	眼科	教授	36年	
東野 哲也	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	34年	
川越 靖之	産科・婦人科	准教授	23年	
平井 俊範	放射線科	教授	26年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	25年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	32年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	22年	
片岡 寛章	病理診断科	教授	33年	
落合 秀信	救急科	教授	27年	
帖佐 悦男	リハビリテーション科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
①初心者のための尿検査法、髄液検査法、顕微鏡検査の実習、②脳損傷者に対するリハビリテーション、③関節可動域制限と筋力低下に対する運動療法、④症例検討から学ぶがんのリハビリテーションの進め方、⑤訪問リハビリテーション セラピストに期待すること、⑥Crouzon病の発達のフォロー、⑦放射線治療の技術水準向上と標準化を図り、放射線治療の品質管理を担う専門的人材を育成する、⑧人工心肺装置及び補助循環装置について、⑨人工呼吸の始業点検、回路準備、操作方法、⑩血液浄化装置の特徴、プライミング、操作方法、⑪保育器の消毒準備方法、⑫除細動器の点検方法、操作方法、⑬ベッドサイドモニタの操作方法、⑭体温調節システムのプライミング、操作方法、⑮麻酔器の始業点検、操作方法、⑯細胞検査士養成研修会、⑰精神科領域専門薬剤師養成講習会、⑱宮崎県病院薬剤師会研修会、⑲宮崎県病院薬剤師会がん領域研究会、⑳宮崎県病院薬剤師会卒後研修会、㉑認定輸血検査技師制度指定施設研修 研修の期間：平成27年度 実施回数：①2回、②1回、③1回、④1回、⑤1回、⑥1回、⑦2回、⑧4回、⑨12回、⑩2回、⑪2回、⑫8回、⑬1回、⑭1回、⑮1回、⑯3回、⑰4回、⑱5回、⑲2回、⑳1回、㉑1回 参加人数：①33人、②21人、③21人、④20人、⑤21人、⑥20人、⑦84人、⑧18人、⑨105人、⑩5人、⑪25人、⑫69人、⑬2人、⑭16人、⑮5人、⑯66人、⑰各40人、⑱各110人、⑲各50人、⑳60人、㉑1人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
①平成28年度介護報酬改正に関する研修、②病理業務に関する研修医に対する研修、③剖検症例検討会 研修の期間：平成27年度 実施回数：①1回、②234回、③33回 研修の参加人数：①20人、②各25～30人、③各25人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
①初心者のための尿検査法、髄液検査法、顕微鏡検査の実習、②高次脳機能障害者への支援システム、就労支援、③ニューロリハビリテーションにおける経頭蓋直流電気刺激の活用 他、④高齢者の呼吸ケアとスキンケア、⑤人工呼吸器装着患者のケア、⑥病理診断フォーラム、⑦子宮頸部の細胞診ワークショップ 研修の期間：平成27年度 実施回数：①2回、②1回、③1回、④1回、⑤1回、⑥1回、⑦1回 研修の参加人数：①28人、②74人、③107人、④27人、⑤17人、⑥49人、⑦42人

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画    ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 鮫島 浩
管理担当者氏名	総務課長 大西 文昭

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。</li> <li>エックス線写真は電子媒体に保存</li> </ul>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	なし	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課 総務課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 鮫島 浩	
閲覧担当者氏名	総務課長 大西 文昭	
閲覧の求めに応じる場所	ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none"><li>・内部者については、権限を付与し、閲覧を制限している。</li><li>・外部者については、特に定めていない。</li></ul>		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li><li>2. 医療に係る安全管理体制</li><li>3. 職員研修・教育</li><li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li><li>5. 医療事故等発生時の対応</li><li>6. 患者等との情報の共有</li><li>7. 患者からの相談の対応</li><li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無（有）</li><li>・ 開催状況：年13回</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。</li><li>2. 医療安全管理マニュアルに関する事。</li><li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。</li><li>4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。</li><li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。</li><li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。</li><li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。</li><li>8. 医療安全管理部の業務に関する事。</li><li>9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li><li>10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li><li>11. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。</li></ol></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全管理に関する講演会（4回）<ul style="list-style-type: none"><li>第1回 医療者間のコミュニケーションと説明・同意</li><li>第2回 もし大学病院の職員が医療安全のマネジメントを学んだら</li><li>第3回 医療機器の安全管理について</li><li>第4回 『臨床倫理相談』って、どんな時にするの？－思わぬ“倫理トラブル”に巻き込まれないために</li></ul></li><li>※ 講演会未受講者はe-ラーニングシステムを活用し、受講している。</li><li>2. 各部署との勉強会（2回）</li><li>3. 実践セミナー（2回）</li><li>4. 新規採用者研修（11回）</li></ol></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知</li><li>2. 作業標準の作成</li><li>3. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し</li><li>4. 院内ラウンド</li><li>5. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告</li><li>6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等</li><li>7. 院内全死亡例についての検証</li></ol></li></ul>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li><li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li><li>3. 職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告</li><li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染の予防に関すること。</li><li>2. 感染の情報の収集に関すること。</li><li>3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。</li><li>4. 防疫対策の確立に関すること。</li><li>5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</li></ol></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 1 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全管理に関する講演会（4 回）<ul style="list-style-type: none"><li>※ 講演会未受講者は e-ラーニングシステムを活用し、受講している。</li><li>・ 血液培養検査の注意点と検査の流れ</li><li>・ 知らないではすまされない・・・HIV/AIDS と性感染の『い・ろ・は』</li><li>・ 本院の感染対策の現状</li><li>・ 知って得する感染対策！～当院で報告数の多い感染症（クロストリジウム・ディフィシル）について～</li></ul></li><li>2. 各部署との勉強会（6 回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 栄養管理部 病院における調理部門の特殊性、主な食中毒の特徴、過去の食中毒の原因食品、食中毒予防策、動画による食中毒対策（体調管理）、感染症罹患時での就業制限等</li><li>・ 外来看護師 外来部門の特徴と問題点、標準予防策、感染経路別予防策、Q&amp;A 等</li><li>・ ME 機器センター 標準予防策、Q&amp;A</li><li>・ 救命救急センター 冬の感染症対策</li><li>・ 小児科 冬の感染症対策</li><li>・ 薬剤部 TDM 業務、アルコール消毒の方法と使用場面、環境衛生（施設、防護具、調剤環境）、治療</li></ul></li><li>3. 新規採用者研修（1 1 回）</li></ol></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有 ）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部、インфекションコントロールチームでの検討、現場へのフィードバックを行う。</li><li>2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナーズ、感染担当者など当該科の責任者が医事課・感染制御部へ報告する。CIC は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。</li><li>3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策の推進を図る。</li></ol></li></ul>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る  
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 4月 医員（研修医）対象：オリエンテーション開催 医薬品の安全について 6月 看護師対象：静脈注射に関する薬剤の基礎知識	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有) ・ 業務の主な内容：  (1) 業務手順書に基づいて業務が実施されているかチェック表を用いて確認した。 (2) 医薬品安全管理上注意すべき情報提供を全職員に対し随時行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  (1) 業務手順書は、作成後、各部門へ一部ずつ配布した。また、手順書の周知を徹底するために院内電子カルテの「カムナビ」に掲載し、全職員が閲覧できるようにした。  (2) 業務手順書を現場の実情にあうように改訂した。	



(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
・ 研修の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明 (2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処 (3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて (4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して (5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ) ・ 保守点検の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」を改訂し、医療安全管理責任者の配置や役割を明記した。10月1日から運用する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6名)
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室を中心に情報を収集・整理し、院内 LAN 及び紙面により適宜診療科等へ情報提供を行っている。また、各階の病棟担当薬剤師により医薬品に関する情報提供・周知を行っている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 医薬品調剤管理室長および各病棟担当薬剤師を担当者に定め、未承認医薬品および適応外で使用している医薬品の使用状況を把握させるとともに、その必要性和妥当性の検討とエビデンスの有無について確認させている。 ・担当者の指名の有無 (有) 医薬品調剤管理室長と各病棟担当薬剤師を担当者に指名した。	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)	
・規程の主な内容： 1. インフォームド・コンセントの基本理念 2. インフォームド・コンセントに関する責任者 3. インフォームド・コンセントの実施 (1) 医師が実施すべき基本事項 (2) 説明すべき項目 (3) 説明に際しての留意点 (4) 説明・同意文書作成の留意点 (5) 医師以外の医療従事者が、患者やその家族から説明を求められた際に留意すべき事項	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
・活動の主な内容： 診療録管理責任者は診療録の管理状況及び記載内容の確認を定期的に行い、管理及び記載内容が十分でない事例が認められる場合は、必要な指導を行うとともに、当該事例を各部署に通知し、又は研修で取り上げるなどして、適切に診療録の管理が行われるよう努めるものとする。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（２）名、専任（０）名、兼任（７）名</p> <p>うち医師：専従（０）名、専任（０）名、兼任（６）名</p> <p>うち薬剤師：専従（０）名、専任（０）名、兼任（１）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。</li> <li>2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li> <li>4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>5. 患者からの医療に係る相談に関すること。</li> <li>6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。</li> <li>7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。</li> <li>8. 医療安全のための教育・研修に関すること。</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルに関すること。</li> <li>10. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。</li> <li>11. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。</li> <li>12. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>医療安全管理部門における専従の医師、薬剤師及び看護師の配置については、現在、専従の看護師を２名配置している。専従の医師と薬剤師については、定員や予算措置等も含め大学全体で前向きに検討を行っている。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p>	

・ 規程の主な内容：

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況 検討中

・ 監査委員会の開催状況：（検討中）

・ 活動の主な内容：（検討中）

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（検討中）

・ 委員名簿の公表の有無（検討中）

・ 委員の選定理由の公表の有無（検討中）

・ 公表の方法：（検討中）

監査委員会を設置するために、「宮崎大学医学部附属病院における安全管理に関する外部監査委員会規程」(案)を作成し、監査委員の選定について現在検討中である。また、8月に行われた国立大学附属病院の専任リスクマネージャー九州地区研修では、九州地区の特定機能病院が協調し、相互に監査を行う案も提案されたことから、今後は他大学の状況等を参考にしながら、学内で検討する予定である。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- 注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
  3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 284 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 38 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
  1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。
  2. 医療安全管理マニュアルに関する事。
  3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。
  4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。
  5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。
  6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。
  7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。
  8. 医療安全管理部の業務に関する事。
  9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。
  10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。
  11. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（ 検討中 ）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（ 検討中 ）
- ・技術的助言の実施状況  
立入り、受入れの方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているが、現在のところまだ示されていない。今後、厚生労働省から示される立入り及び受入れの方法、内容を参考に来年度から行う予定である。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（9月28日の病院連絡会にて院内に周知し10月1日から運用する。）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全管理に関する講演会（4回）

第1回 医療者間のコミュニケーションと説明・同意

第2回 もし大学病院の職員が医療安全のマネージメントを学んだら

第3回 医療機器の安全管理について

第4回 『臨床倫理相談』って、どんな時にするの？－思わぬ“倫理トラブル”に巻き込まれないために

※ 講演会未受講者はe-ラーニングシステムを活用し、受講している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

11月に開催される九州厚生局主催の医療安全に関するワークショップに管理者が参加する予定である。なお、国立大学附属病院長会議が実施する研修(今後検討予定)に来年度から管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を積極的に参加させる予定である。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院機能評価を平成25年1月21日から1月23日の期間で受審した。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションシートを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。  診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、がん診療チーム、緩和ケアチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。  手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。	